

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号  
特許第6536290号  
(P6536290)

(45) 発行日 令和1年7月3日 (2019.7.3)

(24) 登録日 令和1年6月14日 (2019.6.14)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 5/52 (2006.01)

B 6 5 D 5/36 (2006.01)

B 6 5 D 5/52 J

B 6 5 D 5/36 F

請求項の数 7 (全 10 頁)

|           |                              |           |                     |
|-----------|------------------------------|-----------|---------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2015-168318 (P2015-168318) | (73) 特許権者 | 000122298           |
| (22) 出願日  | 平成27年8月27日 (2015.8.27)       |           | 王子ホールディングス株式会社      |
| (65) 公開番号 | 特開2017-43394 (P2017-43394A)  |           | 東京都中央区銀座4丁目7番5号     |
| (43) 公開日  | 平成29年3月2日 (2017.3.2)         | (74) 代理人  | 110001243           |
| 審査請求日     | 平成29年12月11日 (2017.12.11)     |           | 特許業務法人 谷・阿部特許事務所    |
|           |                              | (72) 発明者  | 小林 昌弘               |
|           |                              |           | 東京都中央区銀座五丁目12番8号 王子 |
|           |                              |           | コンテナ株式会社内           |
|           |                              | (72) 発明者  | 今川 明日香              |
|           |                              |           | 東京都中央区銀座五丁目12番8号 王子 |
|           |                              |           | コンテナ株式会社内           |
|           |                              | 審査官       | 長谷川 一郎              |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 箱および該箱用のブラנקシート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

相互に平行な一对の第1縁辺およびこれら第1縁辺と直交する相互に平行な一对の第2縁辺によって仕切られる矩形の底壁部と、

前記一对の第1縁辺から前記底壁部に対してそれぞれ直角に立ち上がる一对の第1側壁部と、

該一对の第1側壁部のそれぞれから、前記第1縁辺と平行な第3縁辺を介して前記底壁部と平行に延在するとともに、前記底壁部の上方で間隙を形成する一对の上壁部と、

前記一对の第2縁辺から前記底壁部に対してそれぞれ直角に立ち上がる一对の第2側壁部と、

を具え、

前記一对の第2側壁部のそれぞれは、

前記一对の第1側壁部のそれぞれに連続し、前記第1側壁部および前記底壁部と直角な一对の端部と、

該一对の端部をつなぐ第2側壁本体部であって、前記第2縁辺に一致する下底と、前記第2縁辺より短い上底とを有する等脚台形状を呈するように折り返され、当該折り返し部が前記端部の一部に重畳されて剥離可能に接着される第2側壁本体部と、

を有し、

さらに、前記上壁部に連続して設けられた折り曲げ部であって、前記端部と重畳するように折り曲げられ、前記端部の前記一部とは異なる部位で前記端部に接着された折り曲げ

部、  
を備えたことを特徴とする箱。

【請求項 2】

前記上壁部、前記第 1 および第 2 側壁部がなす角から、前記第 3 縁辺に対向する前記上壁部の縁辺まで、当該縁辺の中央側に向けて延在する折り曲げ線を有することを特徴とする請求項 1 に記載の箱。

【請求項 3】

前記折り曲げ部は、前記第 2 側壁本体部とは重畳しないことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の箱。

【請求項 4】

請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の箱を形成するための、二対の対向辺を有する矩形の四隅が切り欠かれた形状のブランクシートであって、

一方の一对の対向辺のそれぞれに対して平行に設けられ、前記底壁部、前記第 1 側壁部および前記端部を形成するための一对の第 1 折り曲げ線と、

他方の一对の対向辺のそれぞれに対して平行に設けられ、前記底壁部および前記第 2 側壁部を形成するための一对の第 2 折り曲げ線と、

前記第 1 折り曲げ線に対して平行に、且つ前記一方の一对の対向辺の側にそれぞれに偏倚して設けられ、前記上壁部を形成するための一对の第 3 折り曲げ線と、

前記一对の第 1 折り曲げ線および前記一对の第 2 折り曲げ線の交点のそれぞれから、前記他方の一对の対向辺のそれぞれまで、当該対向辺の中央側に向けて延在する、前記折り返し部を形成するための第 4 折り曲げ線と、

を具えたことを特徴とするブランクシート。

【請求項 5】

前記一对の第 2 折り曲げ線および前記一对の第 3 折り曲げ線の交点のそれぞれから、前記一方の一对の対向辺のそれぞれまで、当該対向辺の中央側に向けて延在する第 5 折り曲げ線を有することを特徴とする請求項 4 に記載のブランクシート。

【請求項 6】

前記折り曲げ部が前記第 2 側壁本体部と重畳しないように、前記矩形の四隅が切り欠かれていることを特徴とする請求項 4 または 5 に記載のブランクシート。

【請求項 7】

請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の箱の前記端部から前記折り返し部を剥離し、前記一对の上壁部を互いに引き離すことで、前記第 1 側壁部が前記底壁部とともに新たな底壁となり、前記第 2 側壁部および前記上壁部が側壁となったトレイの形態を有する箱の形成方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、物品を流通および展示するために収容する箱、および、それを形成するためのブランクシートに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来の箱として、例えば特許文献 1 に開示されたもののよう、矩形状の底壁部と、底壁部の四辺から立ち上がる側壁部と、対向する一对の側壁の上縁からそれぞれ底壁部と平行に延在するとともに、底壁部の上方において間隙を形成する上壁部と、を備えたものがある。かかる構成は、収容されている物品を間隙を通して外から視認できるため、箱の外側の表示等を読むことで収納物品の種別等を確認する作業を省略することが可能となる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 実用新案登録第 3070757 号公報

10

20

30

40

50

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

そのような箱は、収容物品の流通過程での確認には有用であるが、上面の一部が上壁部によって覆われているため、販売のための展示には必ずしも適していない。特に、上壁部が形成する間隙が、収納物品の脱落を防止し得るように設定されている場合、視認性が劣るだけでなく、消費者が実際に手にとって物品を確認することができない。従って、そのような箱は、展示時には分解するか、または少なくとも上壁部を除去する手間を要するものであった。

## 【0005】

よって本発明は、流通過程に適した物品収容形態から、販売のための展示に適した物品収容形態へと、簡単且つ容易に変形できる箱およびそのためのブランクシートを提供することを目的とする。

## 【0006】

また、本発明の他の目的は、展示に適した物品の収容形態からさらに、処分に適した形態にも簡単且つ容易に変形できる箱およびそのためのブランクシートを提供することにある。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0007】

そのために、本発明の箱は、相互に平行な一对の第1縁辺およびこれら第1縁辺と直交する相互に平行な一对の第2縁辺によって仕切られる矩形の底壁部と、一对の第1縁辺から底壁部に対してそれぞれ直角に立ち上がる一对の第1側壁部と、該一对の第1側壁部のそれぞれから、第1縁辺と平行な第3縁辺を介して底壁部と平行に延在するとともに、底壁部の上方で間隙を形成する一对の上壁部と、一对の第2縁辺から底壁部に対してそれぞれ直角に立ち上がる一对の第2側壁部と、を具え、一对の第2側壁部のそれぞれは、一对の第1側壁部のそれぞれに連続し、第1側壁部および底壁部と直角な一对の端部と、該一对の端部をつなぐ第2側壁本体部であって、第2縁辺に一致する下底と、第2縁辺より短い上底とを有する等脚台形状を呈するように折り返され、当該折り返し部が端部の一部に重畳されて剥離可能に接着される第2側壁本体部と、を有し、さらに、上壁部に連続して設けられた折り曲げ部であって、端部と重畳するように折り曲げられ、端部の一部とは異なる部位で端部に接着された折り曲げ部、を備えたことを特徴とする。

## 【0008】

ここで、上壁部、第1および第2側壁部がなす角から、第3縁辺に対向する上壁部の縁辺まで、当該縁辺の中央側に向けて延在する折り曲げ線を有するものとすることができる。

## 【0009】

また、折り曲げ部は、第2側壁本体部とは重畳しないものとすることができる。

## 【0010】

また、本発明は、上記の箱を形成するための、二対の対向辺を有する矩形の四隅が切り欠かれた形状のブランクシートであって、一方の一对の対向辺のそれぞれに対して平行に設けられ、底壁部、第1側壁部および端部を形成するための一对の第1折り曲げ線と、他方の一对の対向辺のそれぞれに対して平行に設けられ、底壁部および第2側壁部を形成するための一对の第2折り曲げ線と、第1の折り曲げ線に対して平行に、且つ一方の一对の対向辺のそれぞれに偏倚して設けられ、上壁部を形成するための一对の第3折り曲げ線と、一对の第1折り曲げ線および一对の第2折り曲げ線の交点のそれぞれから、他方の一对の対向辺のそれぞれまで、当該対向辺の中央側に向けて延在する、折り返し部を形成するための第4折り曲げ線と、を具えたことを特徴とする。

## 【0011】

ここで、一对の第2折り曲げ線および一对の第3折り曲げ線の交点のそれぞれから、一方の一对の対向辺のそれぞれまで、当該対向辺の中央側に向けて延在する第5折り曲げ線

10

20

30

40

50

を有するものとすることができる。

【 0 0 1 2 】

また、折り曲げ部が第 2 側壁本体部と重畳しないように、矩形の四隅が切り欠かれているものとすることができる。

【 0 0 1 3 】

さらに、本発明は、上記の箱の端部から折り返し部を剥離し、一対の上壁部を互いに引き離すことで、第 1 側壁部が底壁部とともに新たな底壁となり、第 2 側壁部および上壁部が側壁となったトレイの形態を有する箱を形成する方法に存する。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

本発明によれば、単に上記端部から折り返し部を剥離し、一対の上壁部を互いに引き離すことで、第 1 側壁部が底壁部とともに新たな底壁となり、第 2 側壁部および上壁部が側壁となったトレイの形態に変形させることのできる箱が提供される。

【 0 0 1 5 】

また、トレイの形態の箱に対し、折り曲げ部を含めて第 2 側壁部を底壁側に折り畳む操作を行えば、処分に適した、実質的に平坦となった形態に変形させることができる。この際、上壁部、第 1 および第 2 側壁部がなす角から、第 3 縁辺に対向する上壁部の縁辺まで、当該縁辺の中央側に向けて延在する折り曲げ線を有していれば、操作の容易化および変形のし易さに資するものとなる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 6 】

【 図 1 】 本発明の一実施形態に係る箱の斜視図である。

【 図 2 】 図 1 に示した箱を形成するためのブランクシートの平面図である。

【 図 3 】 ( a ) ~ ( c ) は、箱の組み立て工程の説明図である。

【 図 4 】 ( d ) および ( e ) は、箱の組み立て工程の説明図である。

【 図 5 】 ( a ) ~ ( c ) は、箱の変形工程の説明図である。

【 図 6 】 他の実施形態に係る箱の一部を示した斜視図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 7 】

以下、図面を参照して本発明を詳細に説明する。

【 0 0 1 8 】

( 箱 )

図 1 は、本発明の一実施形態に係る箱の外観斜視図である。なお、図 1 は、二点差線で示すカップ入り食品を収容した状態の箱を示しているが、収容される物品としてはこれに限られるものではなく、例えば缶、瓶などに封入された食品または飲料や、野菜または果実類などであってもよい。

【 0 0 1 9 】

図 1 の実施形態に係る箱は、相互に平行な一対の第 1 縁辺 1 1 およびこれら第 1 縁辺 1 1 と直交する相互に平行な一対の第 2 縁辺 2 1 によって仕切られる矩形の底壁部 4 0 を備える。一対の第 1 縁辺 1 1 からは相互に対向する一対の第 1 側壁部 1 0 が、また一対の第 2 縁辺 2 1 からは相互に対向する一対の第 2 側壁部 2 0 が、それぞれ底壁部 4 0 に対して直角に立ち上がっている。一対の第 1 側壁部 1 0 のそれぞれは第 1 縁辺 1 1 と平行な第 3 縁辺 3 1 を有し、各第 3 縁辺 3 1 からは上壁部 3 0 が底壁部 4 0 と平行に延在している。一対の上壁部 3 0 は底壁部 4 0 の上方で間隙を画成しており、本実施形態では、その間隙は収容する物品の脱落が生じない寸法に設定されている。

【 0 0 2 0 】

各第 2 側壁部 2 0 は、隣接する第 1 側壁部 1 0 に連続し、第 1 側壁部 1 0 および底壁部 4 0 と直角な一対の端部 2 3 と、そのそれぞれに連続し、且つその一部と重畳するように折り返される一対の折り返し部 2 5 と、一対の折り返し部 2 5 に連続するとともに、底壁部に対する稜すなわち第 2 縁辺 2 1 が下底となる台形状の第 2 側壁本体部 2 7 と、を有す

る。折り返し部 2 5 は、その一部において端部 2 3 と例えば接着剤により接着されている。その接着力は、後述するトレイの形態への変形操作を考慮して、接着剤の種類、濃度、塗布量ないしは塗布範囲を適切に定めることで、比較的弱くされていることが好ましい。

【 0 0 2 1 】

各上壁部 3 0 に連続して、第 2 側壁部 2 0 の端部 2 3 と重畳するように折り曲げられた折り曲げ部 3 3 を有する。この折り曲げ部 3 3 は、折り返し部 2 5 が重畳する端部 2 3 の上記一部とは異なる部位に接着される。この接着も接着剤を用いて行うことができるが、その接着力の強さは任意である。

【 0 0 2 2 】

( ブランクシート )

図 2 は、図 1 に示した箱を組み立てるためのブランクシートの平面図である。本実施形態では、ブランクシートとして、シングルフルートの両面段ボール原紙から得られるものを用いる。しかしブランクシートの材料としては、板紙や、複数回にわたって反復使用可能なプラスチックなどの材料を用いたもので構成することも可能であり、本実施形態の如き段ボール原紙に限定されない。

【 0 0 2 3 】

本実施形態のブランクシートは、四隅が斜めに切り欠かれた、二対の対向辺 1 , 2 を有する略矩形の形状である。そして、略矩形の一方の一对の対向辺 1 のそれぞれに対して平行に設けられた一对の第 1 折り曲げ線 1 1 1 と、他方の一对の対向辺 2 のそれぞれに対して平行に設けられた一对の第 2 折り曲げ線 1 2 1 と、第 1 の折り曲げ線 1 1 1 のそれぞれに対して平行に、且つ第 1 の折り曲げ線 1 1 1 よりも一对の対向辺 1 に偏倚して設けられた一对の第 3 折り曲げ線 1 3 1 と、を備える。また、本実施形態のブランクシートは、一对の第 1 折り曲げ線 1 1 1 および一对の第 2 折り曲げ線 1 2 1 の交点 P 1 2 のそれぞれから、一对の対向辺 2 のそれぞれまで中央側に向けて斜め 4 5 度の角度をなして延在する二対の第 4 折り曲げ線 1 2 6 と、一对の第 3 折り曲げ線 1 3 1 と一对の第 2 折り曲げ線 1 2 1 の交点 P 2 3 のそれぞれから、一对の対向辺 2 まで延在する二対の切れ込み 1 3 5 と、を備える。なお、図示の例では、折り曲げ線 1 2 6 には、折り曲げ操作を容易に行うことができるようにスリット 1 2 6 S が設けられている。

【 0 0 2 4 】

折り曲げ線 1 1 1、1 2 1 および 1 3 1 は、それぞれ、図 1 における第 1 縁辺 1 1、第 2 縁辺 2 1 および第 3 縁辺 3 1 となる部分を含んでおり、図 2 では折り曲げ線を示す符号に、対応する縁辺を示す符号を括弧書きで付してある。また、折り曲げ線 1 1 1、1 2 1、1 3 1、1 2 6 および辺 1、2 によって区画される各領域が、底壁部 4 0、第 1 側壁部 1 0 と、端部 2 3、折り返し部 2 5 および第 2 側壁本体部 2 7 を有する第 2 側壁部 2 0 と、上壁部 3 0 とに対応しており、図 2 では各領域に、対応する各部の符号を括弧書きにて示している。従って、図 2 に示すブランクシートを適宜折り曲げることによって、図 1 に示した箱が組み立てられる。

【 0 0 2 5 】

さらに本実施形態のブランクシートは、一对の第 3 折り曲げ線 1 3 1 と一对の第 2 折り曲げ線 1 2 1 の交点 P 2 3 のそれぞれから、一对の対向辺 1 のそれぞれまで中央側に向けて斜めに延在する二対の第 5 折り曲げ線 1 3 7 を備えている。これは、後述するトレイ形態から処分時の形態に箱を変形させる際の操作を容易にするためである。なお、図示の例では、折り曲げ線 1 3 7 には、折り曲げ操作を容易に行うことができるようにスリット 1 3 7 S が設けられている。

【 0 0 2 6 】

領域の寸法について述べると、まず底壁部 4 0 となる領域の寸法は、収納する物品の底面の形状、寸法および収納個数に応じて適宜定め得る。また、第 1 側壁部 1 0 となる領域の幅 w 1 は、収納する物品の高さに応じて定められる。第 2 側壁部 2 0 となる領域の幅 w 2 は、収納物品の脱落が生じない高さを第 2 側壁部 2 0 に提供する寸法とされ、上壁部 3 0 の幅 w 3 は、収納物品の脱落が生じない間隙を上壁部 3 0 が形成するのに適した寸法と

10

20

30

40

50

される。図 1 の箱では、第 1 側壁部 10 の高さが第 2 側壁部 20 よりも大（すなわち  $w_1 > w_2$ ）となっており、また、箱を後述のようにトレイの形態に変形させることを考慮して、第 2 側壁部 20 の高さ上壁部 30 の幅とを等しく（すなわち  $w_2 = w_3$ ）としている。しかし箱ないしブランクシートの各部の寸法は、要求される特性や機能などに応じて、適宜変更することが可能である。

#### 【0027】

（箱の組み立て）

図 3 の（a）～（c）および図 4 の（d）および（e）を用い、図 2 に示したブランクシートから図 1 に示した箱を組み立てる手順を説明する。なお、これらの図においても、図 1 の箱の各部となる各領域に、各部の符号を括弧書きにて示している。また、以下の説明において、「山折り」とは図 2 において紙面の上面側が凸となる折り曲げを意味し、「谷折り」とは紙面の上面側が凹となる折り曲げを意味する。

#### 【0028】

図 3 の（a）は図 2 のブランクシートの斜視図であり、この状態から、第 1 側壁部 10 に対応する第 1 折り曲げ線 111a の部分の谷折り、端部 23 と折り返し部 25 との接続部分に対応する第 1 折り曲げ線 111 の部分 111b の山折り、第 1 側壁部 10 と端部 23 との接続部分に対応する第 2 折り曲げ線 121 の部分 121b の谷折り、および、折り返し部 25 と第 2 側壁部 27 との接続部分にある第 4 折り曲げ線 126 の山折りを同時に行うことで、図 3 の（b）に示した状態を得る。

#### 【0029】

次に、第 2 側壁部 20 に対応する第 2 折り曲げ線 121 の部分 121a の谷折りを行うことで、図 3 の（c）に示すように、折り返し部 25 が端部 23 の一部に重畳した状態で第 2 側壁部 20 が形成される。これに先立って、折り返し部 25 またはこれが重畳する端部 23 の一部（例えばハッチングを施した符号 B で示す部分）に接着剤を塗布しておくことで、両者が接着される。

#### 【0030】

次に、図 4 の（d）に示すように上壁部 30 に対応する第 3 折り曲げ線 131 の谷折りをを行い、さらに上壁部 30 と折り曲げ部 33 との接続部分に対応する第 2 折り曲げ線 121 の谷折りをを行うとともに、予め折り曲げ部 33 または端部 23 の一部に塗布しておいた接着剤によって両者の接着を行うことで、図 4（e）に示すように箱が形成される。

#### 【0031】

なお、本実施形態では、一対の上壁部 30 が形成する間隙は、流通過程において収容物品の脱落が生じない寸法に設定される。従って、物品は、底壁部 40 の上方に上壁部 30 を形成する前に、底壁部 40 または底壁部 40 となる領域に対して配置しておけばよい。

#### 【0032】

（箱の変形）

本実施形態に係る箱は、販売のための物品の展示および取り出しに適した形態、すなわちトレイの形態への変形が可能であり、さらには販売後の処分に適した形態への変形が可能である。

#### 【0033】

図 5 の（a）～（c）を用いて箱の変形手順を説明するに、図 4 の（e）に示した状態から図 5 の（a）に示すように第 2 側壁部 20 を倒した状態とする。端部 23 および折り返し部 25 の間に適用される接着剤が適切に定められていれば、第 2 側壁部 20 を倒す操作には大きな力を要しないものとなる。次に、一対の上壁部 30 を互いに離れるように矢印で示す方向に引く操作を行うことで、図 5 の（b）に示すように、第 1 側壁部 10 が底壁部 40 とともに底壁となり、第 2 側壁部 20 および上壁部 30 が側壁となったトレイ状の形態に変形する。この状態では、収容している物品が完全に露出するので、消費者は、物品の全体を視認したり、実際に手にとって物品を確認したりすることができる。

#### 【0034】

収容している物品がすべてなくなると、処分に適した形態となることが好ましい。その

10

20

30

40

50

場合、折り曲げ部 3 3 を含めて第 2 側壁部 2 0 を底壁側に折り畳む操作を行えば、図 5 の (c) に示したような、実質的に平坦となった形態に変形させることができる。本実施形態では、第 5 折り曲げ線 1 3 7 がその操作の容易化および変形のし易さに資するものとなる。

#### 【 0 0 3 5 】

(その他)

本発明は、以上の実施形態および随所に述べた変形例に限らず、適宜の変更が可能である。例えば、上述の実施形態では、ブランクシートとして四隅を切り欠いた略矩形状のものとし、折り曲げ部 3 3 が第 2 側壁本体部 2 7 とは重畳することなく端部 2 3 に重畳するものとした。しかしブランクシートを、そのような切り欠きをもたない矩形状のものとする  
10  
ことも可能である。その場合、図 6 に示すように、折り返し部の一部は第 2 側壁本体部 2 7 の一部と重畳するため、その重畳部位に接着剤が塗布されないように意を払うこと (例えば図 6 においてハッチングで示す部分 B' に接着範囲を限定すること) や、端部 2 3 から折り返し部 2 5 を剥離する際に折り返し部をめくる動作が必要となる。しかし、切り欠きを設けない分、廃材の発生を抑制することができるので、図 6 に示した構成は、歩留まりの観点からは有利である。

#### 【 0 0 3 6 】

また、例えば冷蔵状態で流通させることが望ましい物品を収容することを考慮して、第 1 および / または第 2 側壁等に通気用の開口を設けておくこともできる。さらに、複数の箱が積載される際の安定性を考慮して、例えば、第 1 側壁部 1 0 と隣接する上壁部 3 0 の  
20  
部位に、第 1 側壁部 1 0 と面一となる切り起こしを形成する一方、底壁部 4 0 と隣接する第 1 側壁部 1 0 の部位に、下に積まれる箱の切り起こしと係合可能な穴を設けておくこともできる。

#### 【符号の説明】

#### 【 0 0 3 7 】

1、2 ブランクシートの辺

1 0 第 1 側壁部

1 1 第 1 縁辺

2 0 第 2 側壁部

2 1 第 2 縁辺

2 3 端部

2 5 折り返し部

2 7 第 2 側壁本体部

3 0 上壁部

3 1 第 3 縁辺

3 3 折り曲げ部

4 0 底壁部

1 1 1、1 2 1、1 3 1、1 2 6 1 3 7 折り曲げ線

1 2 6、1 3 7 スリット

P 1 2、P 2 3 折り曲げ線の交点

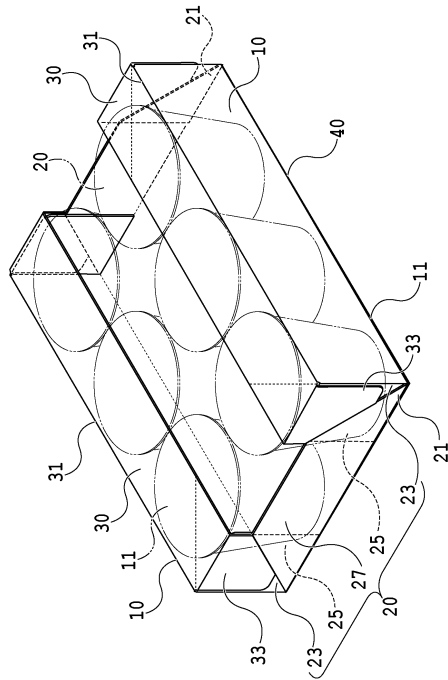
10

20

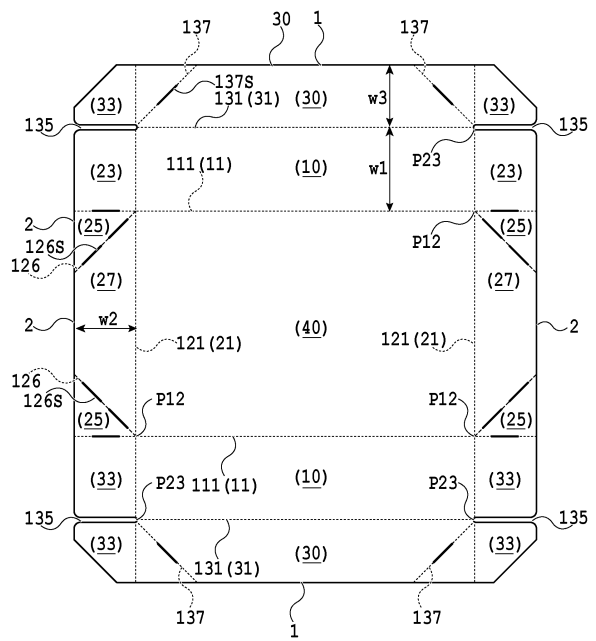
30

40

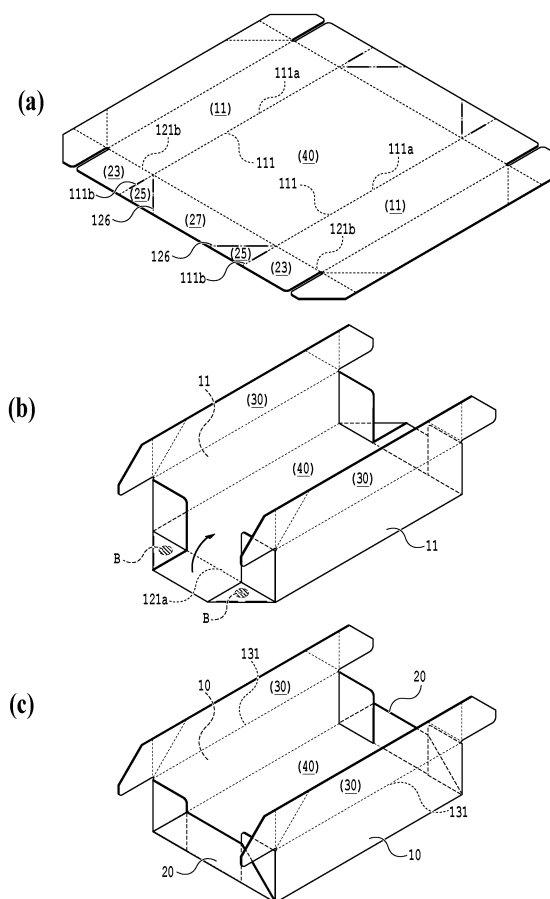
【 図 1 】



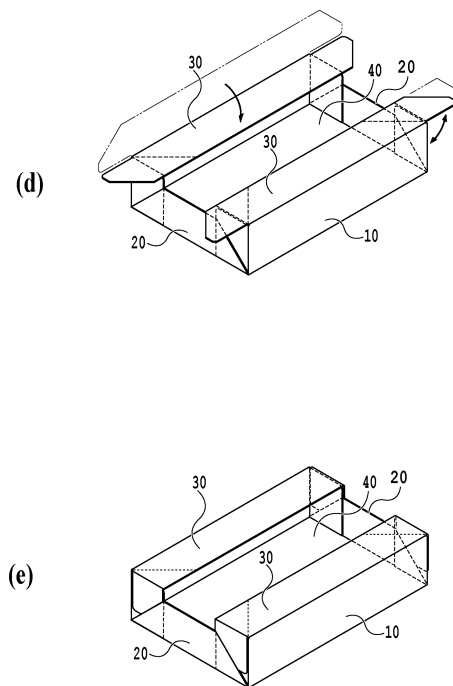
【 図 2 】



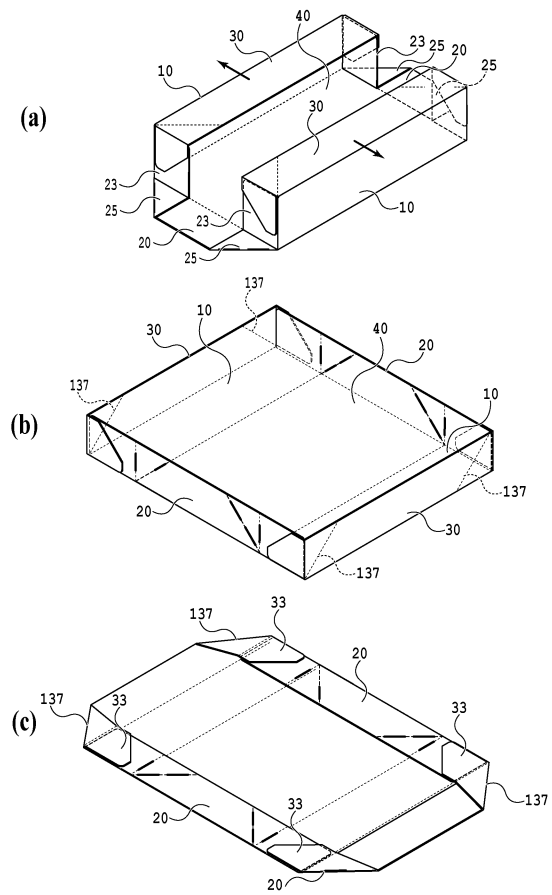
【 図 3 】



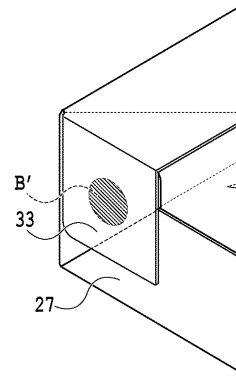
【 図 4 】



【図 5】



【図 6】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開2007-015705(JP,A)  
実開昭59-007116(JP,U)  
英国特許出願公告第01563383(GB,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
B65D 5/52  
B65D 5/36